

文教委員会報告資料

令和4年9月29日

報告事項件名	頁
(教育指導部)	
(1) 学校図書館の充実に向けた今後の取組みについて……………	2
(2) 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の調査結果について……………	4
(3) 小学校社会科副読本改訂委員会の作業開始について……………	9
(4) 「令和4年度第1回学校生活及びいじめに関するアンケート調査」の報告 について……………	11
(5) 国家賠償請求訴訟について……………	16
(学校運営部)	
(6) 足立区育英資金検討委員会委員について……………	17
(7) 足立区育英資金利用者のアンケート結果について……………	18
(8) 就学援助認定基準額の引き上げについて……………	19
(子ども家庭部)	
(9) 令和4年度のICTを活用した不登校児童・生徒の支援について……………	20

(教 育 委 員 会)

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和4年9月29日

件 名	学校図書館の充実に向けた今後の取組みについて
所 管 部 課 名	教育指導部教育政策課
内 容	<p>1 小学校図書館支援について 学校側からの「支援員の配置日数が足りない」、支援員側からの「勤務日数がもっと多く1校だけに集中して取り組めると嬉しい」（いずれも「3受理番号18」より抜粋）との要請について、以下の方策で対応する。</p> <p>(1) 支援員の配置日数の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材派遣のスキームを活用 ・ 現在週2日の派遣日数を週4日に拡大 ・ これまで検討してきたモデル校による直接雇用との比較検証については、全小学校週4日の支援員派遣が完了した後に再度検討 <p>(2) 事業者募集に当たっての条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全小学校に安定して支援員を週4日派遣できること ・ 支援員の全校派遣を3年程度で実現できること ・ 小学校における図書館支援業務に求められるサービス内容や水準を理解・実現できるノウハウを持っていること <p>(3) 今後のスケジュール（予定）</p> <p>令和4年10月 事業者選定委員会の開始 ～12月 プロポーザル方式による事業者の選定 令和5年 4月～ 派遣日数の拡大を段階的に実現</p> <p>2 中学校図書館支援について 図書館支援員にとって働きやすい環境を整備し、支援員の意欲向上や職場への定着を図るため、以下の方策を講じる。</p> <p>(1) 研修や巡回指導の充実 中学校図書館支援に求められるノウハウや困りごとを中心に、より専門性の高い、現場の状況に即した巡回指導を企画・実施する。</p> <p>(2) 支援員の連携強化 支援員同士の意見交換や情報共有を行う定期連絡会を開催し、支援員間の連携を強化する。</p>

	<p>(3) 専門性の向上</p> <p>上述の「研修・巡回指導」や「支援員の連携強化」をより実効性のあるものとするため、司書業務に関する専門的知見や司書教諭の実務経験等を有する専門的な人材を「学校図書館スーパーバイザー（仮称）」として配置することを検討する。</p>
<p>問題点 今後の方針</p>	<p>小学校図書館支援業務のプロポーザル選考結果について、選定委員会終了後、報告する。</p>

文教委員会報告資料

令和4年9月29日

件名	令和4年度「全国学力・学習状況調査」の調査結果について															
所管部課名	教育指導部学力定着推進課															
内容	<p>令和4年4月19日に実施した、令和4年度「全国学力・学習状況調査」の調査結果について、文部科学省より結果データの提供があったため、以下のとおり報告する。</p> <p>1 実施日 令和4年4月19日（火）</p> <p>2 対象学年・科目・受検人数 (単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="472 775 1370 1003"> <thead> <tr> <th>科目 対象学年</th> <th>国語</th> <th>算数/数学</th> <th>理科(※)</th> <th>児童生徒 質問紙調査</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学6年生</td> <td>4,720</td> <td>4,721</td> <td>4,724</td> <td>4,722</td> </tr> <tr> <td>中学3年生</td> <td>4,081</td> <td>4,080</td> <td>4,079</td> <td>4,082</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 理科は3年に1度の実施。前回調査は4年前のH30年度（R2年度は新型コロナウイルス感染拡大により中止のため）</p> <p>3 調査結果の概要</p> <p>数値について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H29年度以後、国は自治体の平均正答率(※)を整数値で公表している。 ※ 児童・生徒の平均正答数の割合を%で示した数値 【(平均正答数/出題数) × 100】 ・ 以降の表の区平均正答率は、全受検児童・生徒の平均正答数をもとに区独自に小数第1位まで算出したもの ・ 都の平均正答率は、公表値(整数)のまま表記した。 	科目 対象学年	国語	算数/数学	理科(※)	児童生徒 質問紙調査	小学6年生	4,720	4,721	4,724	4,722	中学3年生	4,081	4,080	4,079	4,082
科目 対象学年	国語	算数/数学	理科(※)	児童生徒 質問紙調査												
小学6年生	4,720	4,721	4,724	4,722												
中学3年生	4,081	4,080	4,079	4,082												

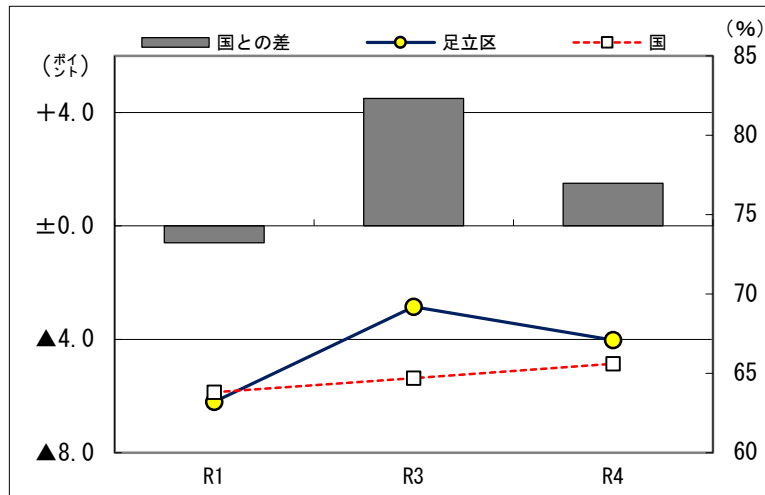
(1) 小学校

ア 国語

上段： 平均正答率 【単位：％】

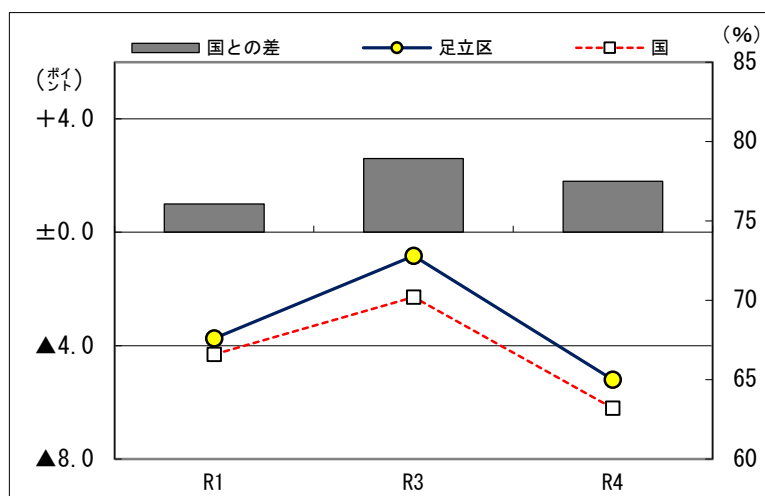
下段： (平均正答数) 【単位：問】

	区	国	国との差	都	
R1	63.2 (8.9)	63.8 (8.9)	▲0.6 (±0.0)	65 (9.1)	出題数 14 問
R3	69.2 (9.7)	64.7 (9.1)	+4.5 (+0.6)	68 (9.5)	出題数 14 問
R4	67.1 (9.4)	65.6 (9.2)	+1.5 (+0.2)	69 (9.6)	出題数 14 問



イ 算数

	区	国	国との差	都	
R1	67.6 (9.5)	66.6 (9.3)	+1.0 (+0.2)	70 (9.8)	出題数 14 問
R3	72.8 (11.7)	70.2 (11.2)	+2.6 (+0.5)	74 (11.8)	出題数 16 問
R4	65.0 (10.4)	63.2 (10.1)	+1.8 (+0.3)	67 (10.7)	出題数 16 問



ウ 理科

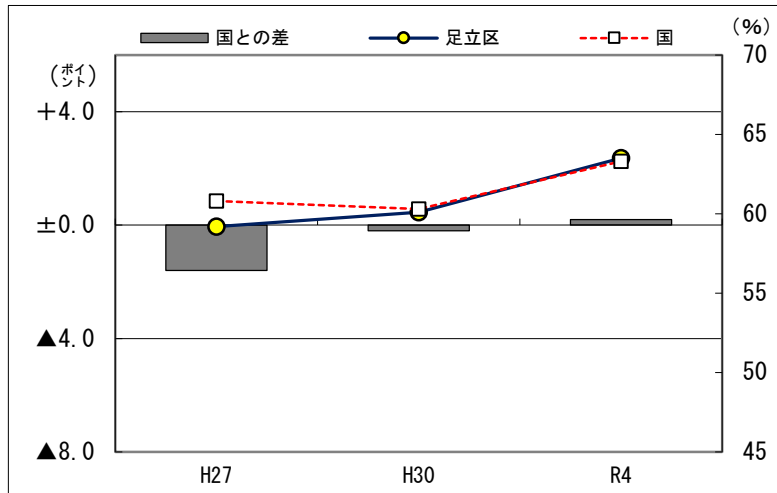
	区	国	国との差
H27	59.2 (14.2)	60.8 (14.6)	▲1.6 (▲0.4)
H30	60.1 (9.6)	60.3 (9.6)	▲0.2 (±0.0)
R4	63.5 (10.8)	63.3 (10.8)	+0.2 (±0.0)

都
62.4 (15.0)
62 (9.9)
65 (11.1)

出題数 24 問

出題数 16 問

出題数 17 問



(2) 中学校

上段： 平均正答率 【単位：％】

下段： (平均正答数) 【単位：問】

ア 国語

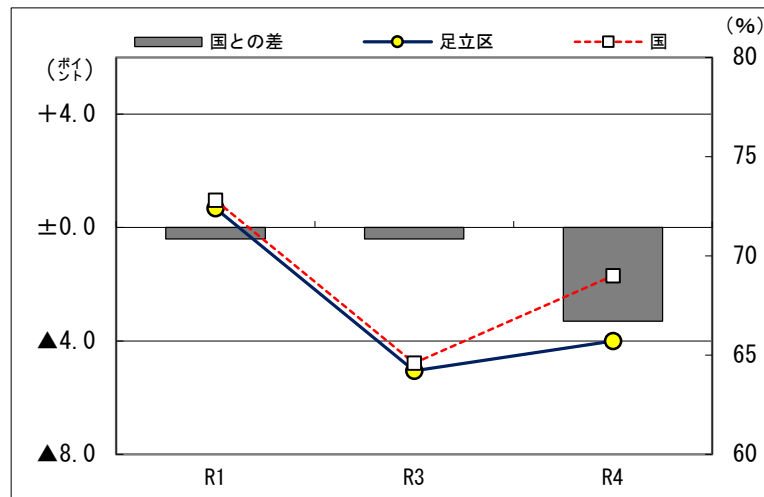
	区	国	国との差
R1	72.4 (7.2)	72.8 (7.3)	▲0.4 (▲0.1)
R3	64.2 (9.0)	64.6 (9.0)	▲0.4 (±0.0)
R4	65.7 (9.2)	69.0 (9.7)	▲3.3 (▲0.5)

都
74 (7.4)
67 (9.4)
70 (9.8)

出題数 10 問

出題数 14 問

出題数 14 問



イ 数学

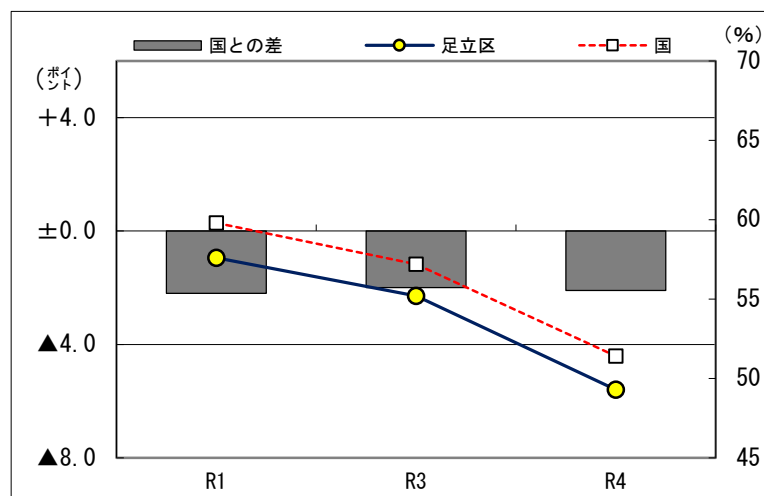
	区	国	国との差
R1	57.6 (9.2)	59.8 (9.6)	▲2.2 (▲0.4)
R3	55.2 (8.8)	57.2 (9.1)	▲2.0 (▲0.3)
R4	49.3 (6.9)	51.4 (7.2)	▲2.1 (▲0.3)

都
62 (9.9)
60 (9.6)
54 (7.6)

出題数 16 問

出題数 16 問

出題数 14 問



ウ 理科

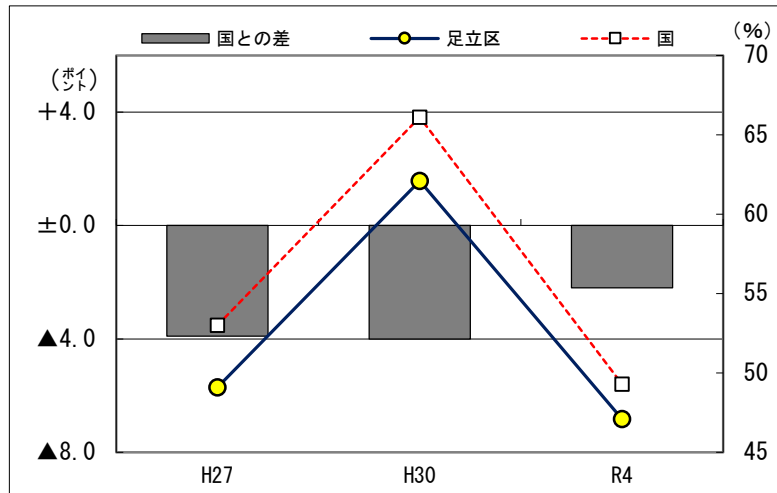
	区	国	国との差
H27	49.1 (12.3)	53.0 (13.3)	▲3.9 (▲1.0)
H30	62.1 (16.8)	66.1 (17.9)	▲4.0 (▲1.1)
R4	47.1 (9.9)	49.3 (10.4)	▲2.2 (▲0.5)

都
52.5 (13.1)
65 (17.7)
51 (10.6)

出題数 25 問

出題数 27 問

出題数 21 問



問題点
今後の方針

区全体の傾向・解説とともに各学校の領域別・観点別の詳細結果を区ホームページに掲載する。

文教委員会報告資料

令和4年9月29日

件名	小学校社会科副読本改訂委員会の作業開始について										
所管部課名	教育指導部教育指導課										
内容	<p>小学校社会科副読本「わたしたちの足立」改訂委員会の作業開始について、以下のとおり報告する。</p> <p>1 改訂の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度中：表記の揺れや正確性に疑義のある表現の修正、区の歴史・伝統に係る項目の追加を行う。 ・ 令和5年度中：大幅に改訂し、区の歴史・伝統に係る項目の補強を行う。 <p>2 以前取り扱っていた「区の歴史・伝統」に係る項目</p> <p>以前取り扱っていた以下の項目を参考に、改定委員会で取捨選択や新規追加を検討する。</p> <p>※は現在も取り扱っている内容</p> <p>(1) むかしの道具のある場所をたずねてみよう（郷土博物館、都市農業公園）※</p> <p>(2) 大乘院（西保木間）のじんがんなわ</p> <p>(3) 鹿浜のししまい</p> <p>(4) 絵馬（千住地区）</p> <p>(5) 新田の水神さま</p> <p>(6) 辰沼のボンデン祭り</p> <p>(7) 西新井大師のだるまくよう</p> <p>(8) 六月炎天寺の一茶まつり</p> <p>(9) 地域の発展につくした人々</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">ア 青山士</td> <td>荒川放水路の工事</td> </tr> <tr> <td>イ 伊奈備前守忠次</td> <td>千住大橋の架橋、八丁堤の築堤</td> </tr> <tr> <td>ウ 井沢弥惣兵衛</td> <td>見沼代への治水工事</td> </tr> <tr> <td>エ 石出掃部亮吉胤</td> <td>千住大橋の架橋、掃部堤の築堤</td> </tr> <tr> <td>オ 清水謙吾</td> <td>江北村長、五色桜の植樹</td> </tr> </table> <p>(10) 荒川をつくる</p> <p>(11) 見沼代用水をつくる</p>	ア 青山士	荒川放水路の工事	イ 伊奈備前守忠次	千住大橋の架橋、八丁堤の築堤	ウ 井沢弥惣兵衛	見沼代への治水工事	エ 石出掃部亮吉胤	千住大橋の架橋、掃部堤の築堤	オ 清水謙吾	江北村長、五色桜の植樹
ア 青山士	荒川放水路の工事										
イ 伊奈備前守忠次	千住大橋の架橋、八丁堤の築堤										
ウ 井沢弥惣兵衛	見沼代への治水工事										
エ 石出掃部亮吉胤	千住大橋の架橋、掃部堤の築堤										
オ 清水謙吾	江北村長、五色桜の植樹										

	<p>3 今年度のスケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年8月31日 第1回改訂委員会 改訂方針の決定 ・ 令和4年9月下旬 第2回改訂委員会 ・ 令和4年10月 第3回改訂委員会 校正開始 ・ 令和4年11月 第4回改訂委員会 ・ 令和5年1月 改訂・編集終了 入稿 ・ 令和5年3月 各小学校へ納品 <p>4 改訂委員会の構成（事務局は教育指導課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校長 1名 ・ 学識経験者 2名 ・ 郷土博物館学芸員 3名 ・ 副読本作成経験者 1名 ・ 東京書籍株式会社等 2名 <p>5 改訂に係る今年度の経費見込（令和4年度既定予算）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 改訂版副読本作成費 $@685 \text{ 円} * 5,650 \text{ 部} * 1.1 = 4,257,275 \text{ 円}$ ・ 改訂委員会委員報酬 <div style="text-align: right;">78,000 円</div> <hr style="width: 20%; margin-left: auto; margin-right: 0;"/> <p style="text-align: right;">合 計 4,335,275 円</p>
<p>問 題 点 今後の方針</p>	<p>校正開始後、進捗状況について中間報告を行う。</p>

文教委員会報告資料

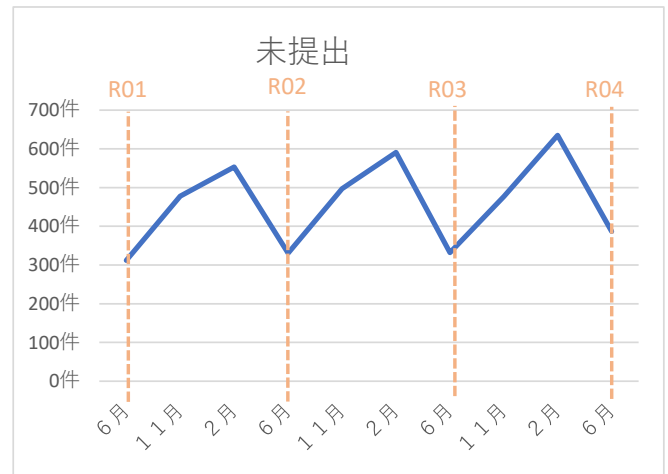
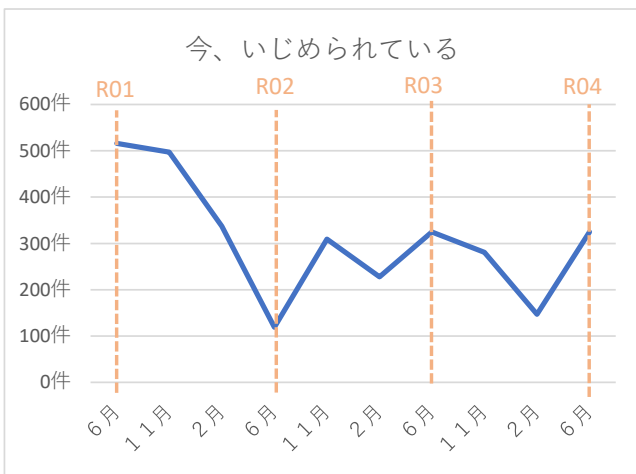
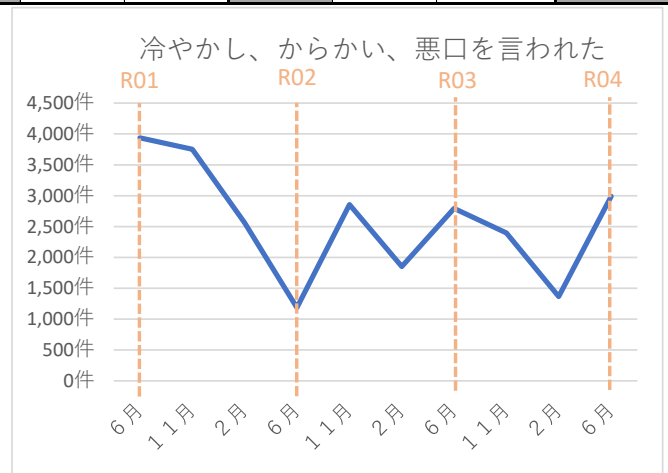
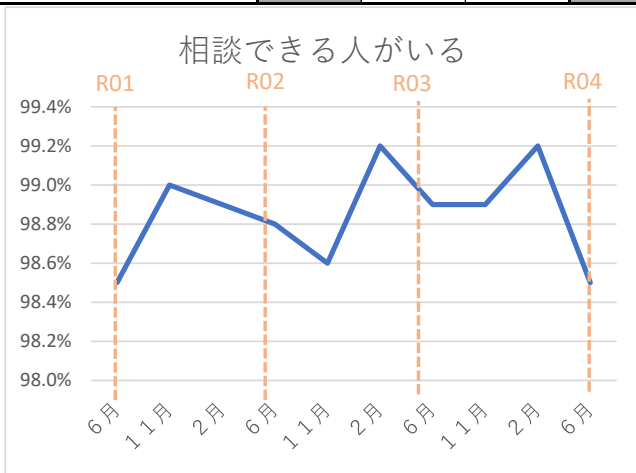
令和4年9月29日

件名	「令和4年度第1回学校生活及びいじめに関するアンケート調査」の報告について									
所管部課名	教育指導部教育指導課									
内容	<p>1 アンケート実施期間 令和4年6月1日から7月1日において各学校が定めた期間</p> <p>2 対象 全区立小・中学校 全児童・生徒</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>調査回答数</td> <td>小学校</td> <td>30,052名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学校</td> <td>13,441名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>43,493名</td> </tr> </table> <p>3 結果概要（主要項目の前年6月との比較） 全体についてはP13～15参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「相談できる人がいる」 98.5%（-0.4ポイント） ・ 「冷やかし、からかい、悪口を言われた」 2,989件（+196件） ・ 「今、いじめられている」 325件（±0件） ・ 未提出数 387件（+55件） <p>4 アンケート結果の分析と今後の対応 （1）結果の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の傾向は1年前の調査と比較して、横ばいもしくは微増という結果である。 ・ 「相談できる」が減少している。1.5%の児童・生徒が「相談できない」状況である。 ・ 相談先の「その他」が増加しており、具体的には「オンライン上の友人」「スマホ」等が増加している。 	調査回答数	小学校	30,052名		中学校	13,441名		計	43,493名
調査回答数	小学校	30,052名								
	中学校	13,441名								
	計	43,493名								

	<p>(2) 今後の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「相談できる人がいますか」の数値が下がったことについて、追加調査を実施する。 ・ 各校において校内での相談先を児童・生徒に改めて周知するとともに、教職員からも日常的に児童・生徒との関わりや声掛けを増やすなどの対応を依頼する。 ・ セーフティ教室等の機会を活用して、児童・生徒のメディアリテラシーを向上させていくことで、児童・生徒が正しくネット上の相談先を選択できるような力を育成させていく。 ・ 「今いじめられている」児童・生徒については教員が聞き取りを実施し、状況の詳細を把握したうえで指導している。また、学校全体で情報を共有し3か月間の経過観察を実施している。 ・ アンケート用紙を提出しなかった「未提出者」については、教員が電話連絡等によって個別に聞き取りを行っている。アンケートの提出を固辞する保護者や児童・生徒も一定数いるが、今後もこの対応を続けていく。
<p>問題点 今後の方針</p>	<p>令和4年9月の定例校長会、生活指導担当者連絡会において、本アンケートの結果概要を公表するとともに、今後の対応について依頼した。足立区いじめ等問題対策委員会にも報告する。</p>

令和4年度 第1回学校生活及びいじめに関するアンケート調査結果【抜粋】

<経年>	令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度
	6月	11月	2月	6月	11月	2月	6月	11月	2月	6月
相談できる人がいる	98.5%	99.0%	98.9%	98.8%	98.6%	99.2%	98.9%	98.9%	99.2%	98.5%
冷やかし、からかい、悪口を言われた	3,937件	3,753件	2,563件	1,186件	2,857件	1,850件	2,793件	2,395件	1,366件	2,989件
今、いじめられている	516件	497件	337件	119件	309件	228件	325件	281件	147件	325件
未提出	312件	478件	553件	331件	497件	591件	332件	477件	635件	387件



令和4年度 第1回学校生活及びいじめに関するアンケート調査結果（R4. 8月）

基礎情報	小学校			中学校			合計		
	R3.6	R4.2	R4.6	R3.6	R4.2	R4.6	R3.6	R4.2	R4.6
在籍数	30,628人	30,326人	30,198人	13,706人	13,736人	13,682人	44,334人	44,062人	43,880人
調査回答数	30,503人	30,050人	30,052人	13,499人	13,377人	13,441人	44,002人	43,427人	43,493人
回答率	99.6%	99.1%	99.5%	98.5%	97.4%	98.2%	99.3%	98.6%	99.1%
未回収数	125人	276人	146人	207人	359人	241人	332人	635人	387人
前回未回収数	230人	190人	276人	361人	287人	359人	591人	477人	635人

結果 (回答件数)

調査項目	小学校			中学校			合計			
	R3.6	R4.2	R4.6	R3.6	R4.2	R4.6	R3.6	R4.2	R4.6	
1 相談できる人がいる	内訳	99.2%	99.6%	99.0%	98.0%	98.2%	97.5%	98.9%	99.2%	98.5%
	家の人	92.3%	91.4%	91.5%	81.3%	81.1%	80.9%	88.9%	88.3%	88.2%
	※複数回答 先生	64.1%	66.5%	65.5%	50.9%	53.2%	53.1%	60.1%	62.4%	61.7%
	友人	55.9%	61.5%	58.0%	78.2%	77.5%	77.5%	62.8%	66.4%	64.0%
	SC	11.9%	13.3%	12.1%	19.7%	19.0%	21.1%	14.3%	15.1%	14.9%
その他	3.7%	3.0%	3.5%	2.1%	1.9%	3.8%	3.2%	2.7%	3.6%	
<ul style="list-style-type: none"> ・先生（学校、学童、習い事、大学、教育相談センター）・知人・警察官・医師 ・親類・友人（学校、習い事、オンライン上）・ぬいぐるみ・シッター・人形 ・カウンセラー・ランドセル・コールセンター・児童相談所・動物・SNS ・学校関係者（放課後キッズのスタッフ、送迎サポーター）・ヤフー知恵袋 ・いじめ相談LINE・スマホ・ガキンチョ食堂 										
2 冷やかしの、からかい、悪口を言われた	2,598人	1,293人	2,790人	195人	73人	199人	2,793人	1,366人	2,989人	
	8.5%	4.3%	9.3%	1.4%	0.5%	1.5%	6.3%	3.1%	6.9%	
3 仲間はずれ、無視	1,069人	529人	1,074人	45人	20人	65人	1,114人	549人	1,139人	
	3.5%	1.8%	3.6%	0.3%	0.2%	0.5%	2.5%	1.3%	2.6%	
4 軽くぶつかる、叩かれる、蹴られる	765人	351人	842人	86人	32人	78人	851人	383人	920人	
	2.5%	1.2%	2.8%	0.6%	0.2%	0.6%	1.9%	0.9%	2.1%	
5 ひどく叩かれる、蹴られる	515人	268人	560人	31人	9人	29人	546人	277人	589人	
	1.7%	0.9%	1.9%	0.2%	0.1%	0.2%	1.2%	0.6%	1.4%	
6 お金を取られる、隠される	8人	11人	19人	0人	2人	1人	8人	13人	20人	
	0.1%未満	0.1%未満	0.1%未満	0.0%	0.1%未満	0.1%未満	0.1%未満	0.1%未満	0.1%未満	
<ul style="list-style-type: none"> ・公園に遊び行くとき持って行った1,000円がなくなった。 ・友達と遊んでいる時、お財布から300円盗られた。 ・公園でカバンを隠された。 ・自転車をいたずらされたり、お金を取られたりした。 ・携帯ゲームの課金を勝手にされた。 										

調査項目	小学校			中学校			合計			
	R3.6	R4.2	R4.6	R3.6	R4.2	R4.6	R3.6	R4.2	R4.6	
7	物をとられる、隠される	557人 1.8%	277人 0.9%	574人 1.9%	43人 0.3%	25人 0.2%	50人 0.4%	600人 1.4%	302人 0.7%	624人 1.4%
8	嫌なことをされる、させられる	347人 1.1%	183人 0.6%	391人 1.3%	29人 0.2%	6人 0.1%	49人 0.4%	376人 0.9%	189人 0.4%	440人 1.0%
9	パソコンやスマホ、携帯での嫌がらせ	59人 0.2%	29人 0.1%	69人 0.2%	26人 0.2%	10人 0.1%	41人 0.3%	85人 0.2%	39人 0.1%	110人 0.3%
10	他のことでいじめられた ・計算問題ができていないことを指摘される。・ものや体に触られる。 ・変なあだ名で呼ばれた。・つばをはきかけられた。・ズボンを脱がされた。 ・仲間外れのようにされたり、避けられたりした。・トイレをのぞかれた。	160人 0.5%	84人 0.3%	187人 0.6%	9人 0.1%	5人 0.1%	6人 0.1%未満	169人 0.4%	89人 0.2%	193人 0.4%
11	友達がいじめられているのを見た	1,684人 5.5%	809人 2.7%	1,708人 5.7%	78人 0.6%	23人 0.2%	79人 0.6%	1,762人 4.0%	832人 1.9%	1,787人 4.1%
12	今、いじめられている	298人 1.0%	130人 0.4%	289人 1.0%	27人 0.2%	17人 0.1%	36人 0.3%	325人 0.7%	147人 0.3%	325人 0.8%

未回収数の内訳

	小学校			中学校			合計		
	R3.6	R4.2	R4.6	R3.6	R4.2	R4.6	R3.6	R4.2	R4.6
全員回収	23	22	18	4	6	2	27	28	20
1名	19	11	18	5	2	7	24	13	25
2名	6	7	12	5	3	5	11	10	17
5名以内	16	13	14	7	7	6	23	20	20
10名以内	5	13	6	7	5	7	12	18	13
11名以上	0	3	0	7	12	8	7	15	8
合計	69	69	68	35	35	35	104	104	103

未回収となった主な理由

	小学校			中学校			合計		
	R3.6	R4.2	R4.6	R3.6	R4.2	R4.6	R3.6	R4.2	R4.6
学籍のみ	17	12	14	14	9	7	31	21	21
実施期間中に居住地以外に在住	10	2	4	2	0	2	12	2	6
児童相談所等との連携	3	3	12	2	6	10	5	9	22
不登校であり、回収に至らなかった	68	76	53	181	269	134	249	345	187
本人・保護者の判断	14	170	43	4	45	74	18	215	117
病気（入院中も含む）	7	9	11	3	27	9	10	36	20
日本語による読解が困難な状況	6	4	9	1	3	5	7	7	14
合計	125	276	146	207	359	241	332	635	387

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和4年9月29日

件 名	国家賠償請求訴訟について
所管部課名	教育指導部教育指導課
内 容	<p>令和4年7月20日、東京地裁より賠償請求の訴状が送達されたので、報告する。以下は、訴状に記載された事項である。</p> <p>1 当事者 原告 区内在住者（元区立小学校在籍者） 被告 足立区 相被告 区内在住者（原告の同級生の保護者）</p> <p>2 請求の趣旨 被告が連帯して210万4,768円、及びこれに対する令和2年7月1日以降の年3分の割合による金員を支払うこと。</p> <p>3 請求の原因（訴状に記された原告の主張） 令和2年7月、区立小に在籍していた原告は、休み時間に階段から転落して右足首を痛み、翌日病院で「右腓骨遠位骨端線損傷」等で2週間の安静加療を要すると診断された。 教諭は原告を救急搬送するべきところ、必要な対応を怠った。また一部児童が原告を仮病と中傷するのを放置した。よって学校の管理者である足立区に、安全配慮義務違反に基づく賠償を求める。 元同級生の原告を他の児童の前で誹謗中傷した行為について、両親の監督責任を問う。</p>
問 題 点 今後の方針	<p>総務課と連携し、訴訟対応を委任した弁護士の助言指導を受けて、適切に対応していく。</p>

文教委員会報告資料

令和4年9月29日

件名	足立区育英資金検討委員会委員について																																								
所管部課名	学校運営部学務課																																								
内容	<p>足立区育英資金検討委員会の委員について、以下のとおり報告する。</p> <p>1 委員</p> <table border="1" data-bbox="453 584 1401 1240"> <thead> <tr> <th></th> <th>氏名</th> <th>役職</th> <th>専門分野</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>小林 雅之</td> <td>桜美林大学 教授</td> <td>教育社会学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>王 帥</td> <td>東京大学 准教授</td> <td>教育社会学</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>石矢 正幸</td> <td>NPO法人 若者の進学応援プロジェクト 代表理事</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>倉橋 さとみ</td> <td>教育委員</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>小高 潤子</td> <td>都立足立新田高等学校 校長</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>柏木 圭子</td> <td>足立区立第七中学校 校長</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>大山 日出夫</td> <td>教育長</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>上遠野 葉子</td> <td>子ども家庭部長</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>森 太一</td> <td>学校運営部長</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 委嘱・任命期間 令和4年8月12日から令和6年8月11日（2年間）</p> <p>3 今後のスケジュール 令和4年9月6日 第1回 足立区育英資金検討委員会 令和4年10月5日 第2回 足立区育英資金検討委員会</p>		氏名	役職	専門分野	1	小林 雅之	桜美林大学 教授	教育社会学	2	王 帥	東京大学 准教授	教育社会学	3	石矢 正幸	NPO法人 若者の進学応援プロジェクト 代表理事	—	4	倉橋 さとみ	教育委員	—	5	小高 潤子	都立足立新田高等学校 校長	—	6	柏木 圭子	足立区立第七中学校 校長	—	7	大山 日出夫	教育長	—	8	上遠野 葉子	子ども家庭部長	—	9	森 太一	学校運営部長	—
	氏名	役職	専門分野																																						
1	小林 雅之	桜美林大学 教授	教育社会学																																						
2	王 帥	東京大学 准教授	教育社会学																																						
3	石矢 正幸	NPO法人 若者の進学応援プロジェクト 代表理事	—																																						
4	倉橋 さとみ	教育委員	—																																						
5	小高 潤子	都立足立新田高等学校 校長	—																																						
6	柏木 圭子	足立区立第七中学校 校長	—																																						
7	大山 日出夫	教育長	—																																						
8	上遠野 葉子	子ども家庭部長	—																																						
9	森 太一	学校運営部長	—																																						
問題点 今後の方針	<p>「足立区育英資金検討委員会」については、検討内容を別途開催する「足立区育英資金審議会」にて提示・意見聴取する等、相互調整を図りながら進めていく。</p>																																								

文教委員会報告資料

令和4年9月29日

件名	足立区育英資金利用者のアンケート結果について
所管部課名	学校運営部学務課
内容	<p>足立区育英資金検討委員会の開催に先立って実施した足立区育英資金利用者のアンケート結果について以下のとおり報告する。</p> <p>1 対象者</p> <p>(1) 貸付中の方（学生）</p> <p>(2) 償還中の方（社会人等）</p> <p>(3) 返済支援助成制度申請中の方（学生・社会人等）</p> <p>2 回答率</p> <p>24.7%（全679人中168人が回答）</p> <p>3 主な意見</p> <p>(1) 貸付について</p> <p>ア 貸付ではなく給付にしてほしい</p> <p>イ 保証人を2名立てるのが難しい</p> <p>ウ 中間所得層への支援（給付型奨学金）を希望する</p> <p>(2) 償還について</p> <p>ア 足立区内に就職した場合、償還を免除・減額してほしい</p> <p>イ 償還の義務は当然だが、実際やりきれるか不安である</p> <p>ウ 収入に応じて返済額を変更してほしい</p> <p>(3) 返済支援助成について</p> <p>ア 『足立区での2年度分納税』の要件がきつい</p> <p>イ 返済額の上限を『100万円』→『半額』にしてほしい</p> <p>ウ この制度の認知度が低いと感じる</p> <p>(4) その他の意見について</p> <p>ア 奨学金制度を続けて未来の子達への可能性を託してほしい</p> <p>イ お金の心配をせず学業に専念できる環境を整備してほしい</p>
問題点 今後の方針	本アンケート結果を足立区育英資金検討委員会に報告し、利用者の「現状」と「要望」を伝え、実情に即した制度について検討する。

文教委員会報告資料

令和4年9月29日

件名	就学援助認定基準額の引き上げについて																														
所管部課名	学校運営部学務課																														
内容	<p>昨今の物価高騰により、家計への負担が増している。こうした状況は、子どもの学びにも影響を与えることとなり、早急に対応が必要である。</p> <p>については、以下のとおり、家計への負担軽減を目的として、就学援助基準額の引き上げを行うこととしたので報告する。</p> <p>1 実施概要 算定倍率：1.1倍→1.2倍に引き上げ 申請方法：個別受付（申請書の一斉配布は行わない） 変更時期：補正予算成立後、倍率を引き上げて審査</p> <p>2 必要経費 (1) 小学校費 570人増 22,089千円増 → 総計 605,510千円 (2) 中学校費 310人増 15,310千円増 → 総計 536,111千円 合計 880人増 37,399千円増 総計 1,141,621千円</p> <p>3 倍率1.2倍に引き上げた場合（参考）※ 4人世帯の場合</p> <table border="1" data-bbox="464 1122 1390 1305"> <thead> <tr> <th></th> <th>1.1倍</th> <th>1.2倍</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定基準額</td> <td>3,992,945円</td> <td>4,355,940円</td> <td>362,995円</td> </tr> <tr> <td>認定者数</td> <td>12,547人</td> <td>13,427人</td> <td>880人</td> </tr> <tr> <td>否認定者数</td> <td>3,160人</td> <td>2,280人</td> <td>▲880人</td> </tr> </tbody> </table> <p>→ 認定者数は7%増加、否認定者数は28%減少</p> <p>4 他自治体の基準</p> <table border="1" data-bbox="464 1429 1390 1738"> <thead> <tr> <th>生活保護基準</th> <th>倍率</th> <th>自治体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">第68次</td> <td>1.26倍</td> <td>板橋区、台東区</td> </tr> <tr> <td>1.25倍</td> <td>品川区</td> </tr> <tr> <td>1.2倍</td> <td>港区、新宿区、墨田区、目黒区 渋谷区、豊島区、北区、荒川区</td> </tr> <tr> <td>1.18倍</td> <td>江東区</td> </tr> <tr> <td>1.1倍</td> <td>足立区</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 生活保護基準68次は、これまでで最も高い基準</p>		1.1倍	1.2倍	差	認定基準額	3,992,945円	4,355,940円	362,995円	認定者数	12,547人	13,427人	880人	否認定者数	3,160人	2,280人	▲880人	生活保護基準	倍率	自治体	第68次	1.26倍	板橋区、台東区	1.25倍	品川区	1.2倍	港区、新宿区、墨田区、目黒区 渋谷区、豊島区、北区、荒川区	1.18倍	江東区	1.1倍	足立区
	1.1倍	1.2倍	差																												
認定基準額	3,992,945円	4,355,940円	362,995円																												
認定者数	12,547人	13,427人	880人																												
否認定者数	3,160人	2,280人	▲880人																												
生活保護基準	倍率	自治体																													
第68次	1.26倍	板橋区、台東区																													
	1.25倍	品川区																													
	1.2倍	港区、新宿区、墨田区、目黒区 渋谷区、豊島区、北区、荒川区																													
	1.18倍	江東区																													
	1.1倍	足立区																													
問題点 今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> 必要経費は9月補正に提案する。 認定者拡大に伴い、高等学校等入学準備助成の対象者も増加予定（中学3年生106人増×100千円：10,600千円）のため、合わせて9月補正に提案する。 																														

文教委員会報告資料

令和4年9月29日

件名	令和4年度のICTを活用した不登校児童・生徒の支援について										
所管部課名	こども支援センターげんき教育相談課										
内容	<p>令和4年度のICTを活用した不登校児童・生徒の支援について、進捗状況を報告する。</p> <p>1 モデル校でのICTを活用したリアルタイム支援等の取組</p>										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="459 645 603 719">モデル校</th> <th data-bbox="603 645 1398 719">取組の重点ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="459 725 603 887">西新井中学校</td> <td data-bbox="603 725 1398 887"> 別室でのICTを活用した支援（毎日実施） <ul style="list-style-type: none"> ・ 在籍クラスの配信授業をリアルタイム視聴(※1) ・ AIドリルを活用した学習 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="459 893 603 1066">東島根中学校</td> <td data-bbox="603 893 1398 1066"> Classroom(※2)を活用した支援（特定の教科・授業で実施） <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回の授業の内容をまとめた板書の写真をアップロードし、家庭での学習に活用 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="459 1072 603 1223">伊興小学校</td> <td data-bbox="603 1072 1398 1223"> Classroom(※2)を活用した支援（毎日実施） <ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡事項や宿題をアップロード ・ 児童との繋がりや保護者との情報共有に活用 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="459 1229 603 1464">西伊興小学校</td> <td data-bbox="603 1229 1398 1464"> 教室以外(校長室と算数少人数教室の併用)でICTを活用し、教室に入れるように段階的に支援（毎日実施） <ul style="list-style-type: none"> ・ 在籍クラスの配信授業をリアルタイム視聴(※1) ・ AIドリルを活用した学習 </td> </tr> </tbody> </table>	モデル校	取組の重点ポイント	西新井中学校	別室でのICTを活用した支援（毎日実施） <ul style="list-style-type: none"> ・ 在籍クラスの配信授業をリアルタイム視聴(※1) ・ AIドリルを活用した学習 	東島根中学校	Classroom(※2)を活用した支援（特定の教科・授業で実施） <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回の授業の内容をまとめた板書の写真をアップロードし、家庭での学習に活用 	伊興小学校	Classroom(※2)を活用した支援（毎日実施） <ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡事項や宿題をアップロード ・ 児童との繋がりや保護者との情報共有に活用 	西伊興小学校	教室以外(校長室と算数少人数教室の併用)でICTを活用し、教室に入れるように段階的に支援（毎日実施） <ul style="list-style-type: none"> ・ 在籍クラスの配信授業をリアルタイム視聴(※1) ・ AIドリルを活用した学習
	モデル校	取組の重点ポイント									
	西新井中学校	別室でのICTを活用した支援（毎日実施） <ul style="list-style-type: none"> ・ 在籍クラスの配信授業をリアルタイム視聴(※1) ・ AIドリルを活用した学習 									
	東島根中学校	Classroom(※2)を活用した支援（特定の教科・授業で実施） <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回の授業の内容をまとめた板書の写真をアップロードし、家庭での学習に活用 									
	伊興小学校	Classroom(※2)を活用した支援（毎日実施） <ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡事項や宿題をアップロード ・ 児童との繋がりや保護者との情報共有に活用 									
西伊興小学校	教室以外(校長室と算数少人数教室の併用)でICTを活用し、教室に入れるように段階的に支援（毎日実施） <ul style="list-style-type: none"> ・ 在籍クラスの配信授業をリアルタイム視聴(※1) ・ AIドリルを活用した学習 										
<p>※1 配信授業のリアルタイム視聴は、学校長判断で出席扱いとなる。</p> <p>※2 Google のアプリケーション。先生と子どもたちをつなぐプラットフォームで、様々な連絡や資料送付の際に利用できる。</p>											
<p>2 不登校児童・生徒に対する録画動画の活用について</p> <p>オンライン授業をリアルタイムで視聴することに心理的な負担を感じる場合や、授業時間に起きられない場合等の支援策として録画動画を活用する。</p>											

	<p>(1) 動画の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生向け：学校行事等を録画して、学校の様子を視聴することで、学校とのつながりのきっかけにする。 中学生向け：朝の学活等を録画して、学級の様子を視聴することで、教室に入るためのきっかけにする。 <p>(2) 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 当初、チャレンジ学級でテスト的に実施し、録画動画の作成マニュアルを策定する。 マニュアルに基づき、令和4年度後半からモデル校において試行実施する。 <p>3 オンライン相談の状況（令和4年7月末現在）</p> <p>外出が難しい不登校児童・生徒が、自宅からオンラインで教育相談員やスクールカウンセラーとつながり、対面相談のきっかけづくりとする。</p> <table border="1" data-bbox="459 1070 1396 1424"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">西新井教育相談係</th> </tr> <tr> <th>相談申込人数</th> <th>相談実施回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3 (7月～3月末)</td> <td>17人</td> <td>92回</td> </tr> <tr> <td>令和4 (4月～7月末)</td> <td>13人</td> <td>43回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 令和3年度の西新井教育相談係での不登校の相談は490人。児童・生徒が外出困難な場合など、その状況に応じてオンライン相談の活用を提案してきた。申込は10人台で推移しており、多様な活用や有用性について周知・提案していく予定</p> <p>※ スクールカウンセラー及び綾瀬教育相談係のオンライン相談は令和4年6月に機器を配備したが、7月末現在申込はなし。</p>	年度	西新井教育相談係		相談申込人数	相談実施回数	令和3 (7月～3月末)	17人	92回	令和4 (4月～7月末)	13人	43回
年度	西新井教育相談係											
	相談申込人数	相談実施回数										
令和3 (7月～3月末)	17人	92回										
令和4 (4月～7月末)	13人	43回										
<p>問題点 今後の方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> モデル校での取組の重点ポイントや録画動画活用の実践例・好事例を各学校へ情報共有していく。 こども支援センターげんきの教育相談やスクールカウンセラーのオンライン相談の実施を、小・中学校の全保護者に配布される「あだち教育だより」に掲載し周知していく。 											